

「救命救急病棟における早期離床・リハビリテーション加算導入前後の臨床的効果に関する後方視的検討」について

1. 研究の対象

2023年4月1日～2024年3月31日の間に救命救急病棟に入室した20歳以上の患者さん

2. 研究目的・方法

集中治療室に入室される重症の患者さんに対して、早い段階からリハビリテーションを行うことは、筋力低下の予防や、歩行能力の改善に効果があることがわかっています。近年、日本の医療制度でもこの取り組みが評価され、「早期離床・リハビリテーション加算」という新しい仕組みが始まりました。

この研究の目的は、当院において、この新しい仕組みを導入する前後で、患者さんの回復の程度（入院期間の長さ、歩行能力、自宅へ退院できた割合など）がどのように変化したのかを調べることです。また、リハビリテーションの実施状況が、患者さんの回復にどのような影響を与えているかをあわせて調査し、患者さんにとって最も効果的な早期リハビリテーションの方法を構築することを目指しています。

研究の方法として、過去の診療記録のデータを用いて行います。

なお、本研究の研究期間は、病院長許可後から2030年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 基本情報：年齢、性別、BMI、病名、診療科、重症度、併存疾患、臨床虚弱尺度（フレイル）、ご家族構成、医療制度上の評価（救命救急入院料）の算定状況、入院時の日常生活動作能力（Barthel Index）
- 臨床経過：救命救急病棟滞在日数、リハビリの開始時期（入院からの日数）、人工呼吸器（マスク型を含む）の使用期間、薬剤使用状況（ステロイドや血圧を上げるお薬）、心臓・肺・腎臓の働きを補助する治療（補助循環装置や透析など）の有無、せん妄の有無、救命救急病棟での身体活動状況
- リハビリ介入状況：担当リハビリの職種（単一または複数）、救命救急病棟滞在中および退室後のリハビリ時間、医療制度上の評価（早期離床・リハビリテーション加算）の算定状況
- 退院時および退院後の情報：入院日数、歩行能力の回復度（FAC：歩行の自立度を示す指標、Barthel Index）、退院先、再入院の有無など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：磐田市大久保 512-3 場所：磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科

Tel：0538-38-5000（代表） 研究責任者：藤原 充